

今まで
ありがとう
ございました!

看護部通信

2020年3月



この春、看護部では3名の看護師が定年退職されます。残すところ一月になってしまいました。長年中心的に看護部を守り立ててくださった方々ですので、寂しいやら心細いやら今から胸がいっぱいです。数えきれない程お世話になり、ありがとうございました。退職後はこれまで以上に元気に、そしてますます充実した時間を過ごされることを皆でお祈りしています。長い間お疲れ様でした。
(看護管理室)

<お世話になりました> J. H

平成12年4月から20年間、リハセンでお世話になりました。通勤で迷わぬようにと事前に通った道の脇には、まだ雪が残っていたことを思い出します。

社会復帰に向け懸命にリハビリに取り組む患者さんと家族を支え、多職種で協働し取り組む姿に、目まぐるしい急性期とは違った看護のやりがいを感じました。人を大切に扱うことは、自分を大切に扱うこと。自分がされたい看護を心掛け日々過ごしていたつもりですが、できていたかどうか?

こうして無事定年を迎えられたのも、看護部だけではなく周りの皆さんの支えがあったからこそと感謝の気持ちでいっぱいです。リハセンの更なる発展のため、皆さん、“ONE TEAM”で頑張ってください。これからもずっと応援しています。



<皆様に感謝> M. F

定年退職を迎えるにあたり心に残る思い出は、センター開設前のシステム作りや運用・手順等の準備です。配属が決まった病棟で患者さんを受入れるための模擬訓練や勉強会など、自分達で作りに上げていく病棟について話し合いを重ね、スタッフが一丸となって頑張っていた頃がとても懐かしく思い出されます。



開設時、敷地内に植樹された桜などの苗木も大きく成長し、毎年きれいな花を咲かせています。新緑から紅葉、雪景色と自然豊かな環境に日々の疲れも癒やされました。何よりも定年まで働くことができたのは、皆様のサポートがあったからだに感謝しております。

これからは、リハセンの更なる発展と看護部皆様のご活躍を陰ながら応援していきます。

<定年を迎えて思うこと> Y. T

私は、平成9年1月からリハセンの準備に携わりました。駐車場整備はなく除雪車も来ません。外灯もない暗い中、雪にはまった車をみんなで押し出して帰りました。手探りで作成したマニュアルは、時の流れと共に修正され現在に至っています。院内一斉にお湯を出し、温度が一定に保たれているのか等、院内設備のチェックも思い出されます。

私にとって退職は2度目です。看護の面白さもわからない4年足らずで退職し専業主婦となりましたが、医療の場に戻りたい気持ちとリハセンの募集が重なり定年の今に至ります。年代を超えてできた友人、人生の糧となるたくさんの経験。本当に感謝の一言に尽きます。

幼木だった桜も見事な並木となりました。桜の木の成長と共に、今後のリハセンの発展を期待しております。

